

9月にもも組に、8名入園しました。もも組さんですので、朝、幼稚園でのお家の人とお別れは、それはそれは切ないものと、門の所にいる私の耳にも入ってきます。

もも組さんに限らず、ばら組さんは夏休み明けに少し復活し、すみれ組さん、さくら組さんでも、たま～に切ない別れの声が聞こえてきます。

次は、昨年度以前のもので、思わず心の中でつぶやいてしまった園長のひとりごとです。子どもたちには言わないでください。

朝、園児 大きな声で、悲鳴！ 「おうちがいー！」の連呼！

私 「まちがない！ 私もそうおもいます。 でも、でも、幼稚園もすきになってください」

次は、園児の質問への一言です。

朝、園児 園バスを降りるなり「園長先生、帰ってもいいですか？」

私 一瞬、何をおっしゃるのと思いましたが、「これから幼稚園が始まるので、まずは幼稚園へ」と言いました。

園児が転ぶのを見て 私も何回ころんだことか。

そういえば、頭と、指と、足と、お医者さん直行もあったんだよ。

「トイレのスリッパを並べてね」と園児に言った後で、「そう言えば、私がそれをできるようになったのは・・・」。

2階のトイレに行ったとき「えっ！ きちんと並んでる！」 並んでいるのはスリッパです。2階は主にさくら組さんが使用しています。

大人になって、ときどき思うことがあります。

幸せにもいろんな幸せがあるとは思いますが、幸せの原点の一つに〇〇（幼稚園、保育所、学校、職場）に行き、「昨日の△△（テレビ番組）見た？」と言って、「見たー」という返事が返ってきて、話が盛り上がったとき、その時は意識しませんでした。最高に幸せな気分だったと、今更ながら思うのでした。

ある一つのテレビ番組なのですが、見た楽しさ・感動はあるのですが、そのことを自分以外の人と「共有」したときの、できたときの、あの何とも言えない気分って、幸せの一つ、幸せの原点なんじゃないかな？ なんて思ったりするのでした。

なので、例えば運動会ですが、運動会に出た子どもと、それを見たご家族の方は、「運動会」を話題にするとき、最高の幸せを味わっているのではないのでしょうか。身内同士ですから、当然のことながら、わが子中心、我が家中心の会話で、最高ですよ！

なので、来たる生活発表会、どりーむコンサートのときは、大いに幸せを味わいましょう！

しかし、親御さんが見ることができないことでも、お子様から園の行事や出来事を、隈なく聞き出すことにより「共有」が生じ、これまた幸せを味わえることと思います。ぜひ、行ってみてください。

本園で教育実習を行った学生の日誌に「最後の日に『いちばんしあわせな おくりもの』の読み聞かせをしました」と書いてあったのを目にして、私は「えっ！ そんな絵本であるの？」「で、一番幸せな贈り物って何？」と自問自答し、答えが気になりました。すぐに、園の本棚を探しました。ありませんでした。がっかりしました。しばらくすると、そのことはすっかり忘れていましたが、ふと思い出すことがあり、ネットで調べました。あらすじが書いてありました。以下ネットより。

森のはずれに2つの家がありました。小さな切り株は子リスの家で、大きな洞穴はクマ君の家。のんびりなクマ君と元気な子リスは、いつも一緒にいるくらい大の仲良しです。

ある日、ふたりは散歩に出かけました。ちょうど市場を歩いているとき、子リスはクマ君に贈り物をしようと考え、何か欲しいものはないかと尋ねました。ところがクマ君は欲しいものが思いつきません。

「だいすきな くまくんに、じてんしゃをおくろうかな。かぜを きて はしたら、きっと、きもちが いいよ」

子リスは、市場で素敵な自転車を発見してそう言いました。ところが、今吹いている風で十分に気持ちが良いとクマ君は言うのです。

次は素敵な毛糸を見つけた子リス。クマ君にセーターを編んであげようかなと提案します。ところが、冬は暖かい布団で眠るから十分だと言うのです。

子リスは何か贈り物をしようと考えますが、クマ君が何も欲しがらないので少し落ち込んでしまいます。

それでも子リスは諦めません。花束の贈り物をしようと考えたり、遊園地に連れて行こうと考えたり、クマ君への贈り物を一生懸命に考えます。

ところが、いくら提案してもクマ君はどれも必要ないと答えます。子リスはいよいよ諦め加減。これ以上、喜んでもらえそうな贈り物が思い浮かばなかったのです。

「ねえ、くまくんに しあわせな きもちに なってもらいたいんだ！ どうすれば、きみはうれしくなるの？ なにを したら、しあわせなの？」

落ち込んでいた子リスは、クマ君に向かって思わず叫んでしまい……。

何の欲もないクマ君が本当に欲しいものとは一体何なのでしょう。クマ君と子リスの友情に心が温まるお話です。

以上を読んだ私は、本屋に行けば！ と閃き、本屋に行きました！ 本屋で探しました！ ありました！ もちろん、購入しました！

もったいないので、園のお誕生会の園長先生のお話のとき、2回に分けて読み聞かせをしました。

で、ここまで読まれた皆様は、答えがとっても気になっていると思います。わが子に聞けば！ と思おになると思います。そうです！ お子様にお聞きください！ もっ、もし、この答えを答えられるようだったらすごいこと、すばらしいことです！ と言うのは、私は、実習生の日誌を読んで、すぐに、そのクラスに行って答えを数名に聞きました。結果、誰も答えを覚えていませんでした。正直がっかりしましたが、さもありなんと思いました。「今を全力で生きる子どもたち」にとっては、数日前のことは遠い過去のことと覚えていないのが当たり前と思ったのでした。でも、思います。読み聞かせを聞いているときはお話の世界にどっぷりと浸り、終わると、もう次の世界(あそび)に旅立っていると。



ここに答えを書くことは、著作権上から控えさせていただきます。答えが気になる方には、次の方法をお奨めします。

- わが子から、とことん問いただす。
- 本屋かネットで購入する。
作・絵 宮野 聡子
出版社 教育画劇
- 園長から本を借りる。

ちょっと、とりとめのないことを書いてしまいましたが、「読書の秋」のこれから、絵本を親子で共有し、あれこれと話し合うのも、「いちばん しあわせな ひととき」になるのではないのでしょうか？

